

## 2. 市民文化の振興

### (1) 芸術文化

#### ◆目指す姿

多くの市民が芸術文化活動に参加し、ゆとりと潤いのある豊かな生活をしています。

#### ◆施策の基本方針

- ①芸術文化の振興を図るため、芸術文化の鑑賞および発表機会の充実に努めます。
- ②芸術文化活動を支援するため、芸術文化団体および人材の育成に努めます。
- ③文化施設の有効活用を図るため、既存施設の整備に努めます。

#### ◆施策の体系

##### ①芸術文化の振興

|                       |   |  |   |  |   |        |
|-----------------------|---|--|---|--|---|--------|
| 主要事業名                 | 心ふれあい音楽鑑賞事業   |  |   |  |   |        |
| 概要<br>(PLAN)          | 音楽堂の運営方針「音楽文化による地域創造」の基本柱のひとつである「音楽文化を通じた福島の新たな人材育成」を目的に、市内および近隣市町村の小学生とその保護者を対象としたクラシックコンサートを実施する。演奏の鑑賞の他、オーケストラ指揮体験とパイプオルガンに触れることができるコーナーを設けている。  |  |   |  |   |        |
| 取り組み内容<br>と成果<br>(DO) | 東京室内管弦楽団による体験型コンサートを開催した。<br>オーケストラやパイプオルガンの演奏の他、クラシックの名曲にのせてオーケストラで使用する楽器の紹介や、指揮者体験、パイプオルガン体験、リトミック体験や参加者全員での全体合唱を行った。家族で気軽に芸術文化に親しむ機会を提供することができた。 |  |   |  |   |        |
| 達成度                   | 指標名   | 心ふれあい音楽鑑賞教室入場者数                                  |   |  |   |        |
|                       | 目標値(目標)   | 900人   |   |  |   |        |
|                       | 実績値   | 平成28年度   | 平成29年度  | 平成30年度   | 平成31年度  | 平成32年度 |
|                       |   | 677人   | 800人  |  |   |        |
| 決算額                   | 2,576千円   | 2,405千円  |   |  |   |        |
| 評価<br>(CHECK)         | 評価の視点   |  | 判断の基準   |  | 判断した理由  |        |
|                       | 必要性   | 施策体系との整合性  | ■A: 整合・貢献している<br>□B: 改善・見直しの余地がある                 |  | 次世代の文化活動を担う子どもたちが親とともに一流の音楽を体験することは、子どもたちの音楽への関心を高め、音楽人口の拡大等、本市の将来の音楽文化の向上に必要である。 |        |
|                       |   | 市の関与の必要性   | ■A: 妥当・義務的な事業<br>□B: 改善・見直しの余地がある                 |  |   |        |
|                       |   | 緊急性  | ■A: 緊急性が高い/優先して実施する必要がある<br>□B: 現時点では必ずしも実施しなくてよい |  |   |        |
|                       | 有効性   | 費用対効果  | ■A: 費用に見合う成果がある<br>□B: 改善・見直しの余地がある               |  | 小学生とその保護者を対象とした幅広い世代に、低廉な価格で一流の音楽を体験する機会を提供した。                                    |        |
|                       |   | 受益者負担  | ■A: 妥当である □: 受益者負担なし<br>□B: 改善・見直しの余地がある          |  |   |        |
|                       |   | 対象の妥当性   | ■A: 妥当である<br>□B: 改善・見直しの余地がある                     |  |   |        |
| 有効性                   | 社会環境の変化   | ■A: 社会環境の変化に適応している<br>□B: 改善・見直しの余地がある           |   | 優れた芸術文化に親しむ貴重な機会を通して親子のふれあいの場を提供した。家族での文化活動への参加の契機となることが期待できる。 |   |        |
|                       | 類似事業との関係  | ■A: 類似事業はない/あるが統合・連携できない<br>□B: 類似の事業があり統合・連携できる |   |  |   |        |
|                       | 廃止・休止の影響  | ■A: 影響がある<br>□B: 影響がない                           |   |  |   |        |
| 前年度評価を受けて29年度に取り組んだ事項 | 子どもからその保護者まで、長く親しまれているアニメソングのテーマ曲の演奏やリトミックコーナーを設けるなど親子で楽しめる内容を企画し集客を図った。  |  |   |  |   |        |
| 課題・問題点                | 29年度は800人の入場者があり、28年度を100名以上回った。また、800人の入場者数であったが、チケット売上は840枚と目標値にかなり近づけた。今後も多くの親子が参加するコンサートを継続したい。   |  |   |  | 評価検証委員会の評価  |        |
|                       |   |  |   |  | ■ 課題・問題点が妥当である<br>□ 課題・問題点が妥当でない  |        |

|                                   |   |  |   |                              |   |                              |
|-----------------------------------|---|--|---|------------------------------|---|------------------------------|
| 課題・問題点<br>に対する<br>改善策<br>(ACTION) | アンケート調査を参考にしながら、入場者のニーズを把握し、より魅力ある内容のプログラムを企画していくことが必要である。  |  |   |                              | 評価検証委員会の評価  |                              |
|                                   |   |  |   |                              | <input checked="" type="checkbox"/> 改善策が妥当である<br><input type="checkbox"/> 改善策が妥当でない |                              |
| 事業の方向性                            | 評価検証委員会の評価  | <input type="checkbox"/> 拡 充   | <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 | <input type="checkbox"/> 縮 小 | <input type="checkbox"/> 休止・廃止  | <input type="checkbox"/> 終 了 |
|                                   | 評価検証委員会の判断理由  | 音楽堂の特色を生かし、親子ともに日本の伝統音楽を含めた本格的な音楽鑑賞体験を重視し、芸術文化の底上げを図るため継続とする。  |   |                              |   |                              |
|                                   | 評価検証委員の意見・助言  | ①音楽堂を有効活用し様々なジャンルの体験型コンサートを実施し、伝統音楽を含め音楽への関心を高めることを望みます。<br>②アニメソングを選曲する等、親子で楽しめるコンサートを企画している。引き続き関係者各位に創意工夫を図っていただき、目標の達成を目指していただきたい。<br>③音楽堂の特色を生かした企画を基本とした継続的な取り組みを評価したい。親しみやすさとともに初めて経験する本格的な音楽鑑賞体験を重視し、安易に質を崩さない方針が本事業の「質」向上につながると思われる。集客だけを指標としないで、アンケートの調査結果などをクロスした評価も必要と思われる。<br>④入場者ニーズの傾向を明らかにしてほしい。<br>⑤有意義な事業であり文化事業として親子ともども楽しむことができることは将来的にも価値あるものとする。 |   |                              |   |                              |
|                                   | 教育委員会の評価  | <input type="checkbox"/> 拡 充   | <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 | <input type="checkbox"/> 縮 小 | <input type="checkbox"/> 休止・廃止  | <input type="checkbox"/> 終 了 |
|                                   | 教育委員会の判断理由  | 一流の音楽を体験することは、子どもたちの音楽への関心を高め、本市音楽文化の向上に必要なことから、今後も優れた芸術文化に親しむ機会を提供していく。   |   |                              |   |                              |
| 評価検証委員の意見・助言に対する教育委員会の検討結果        | ①②③音楽堂の特色を生かした企画を継続するとともに、本格的なオーケストラ演奏と親しみやすい音楽体験等を組み合わせるなどの工夫やアンケート調査を参考にしながら、入場者の音楽文化活動への関心を高める事業にしていきたい。<br>④オーケストラによる曲の演奏だけでなく、楽器紹介や会場全体での歌の合唱など趣向をこらした楽しめるコンサートへの期待が多く寄せられている。<br>⑤音楽を通じた親子のふれあいの機会の場合として継続していきたい。 |  |   |                              |   |                              |

◆施策の体系

②芸術文化活動の支援

|                           |   |   |  |  |             |   |
|---------------------------|---|---|--|--|-------------|---|
| 主要事業名                     | 音楽部活動支援事業   |   |  |  |             |   |
| 概要<br>(PLAN)              | 小・中学校音楽教育研究会音楽科研究部が推薦する小・中学校の音楽部活動（合唱・器楽）を対象に、講習会等の経費を助成し、演奏力の向上を図る。<br>また、楽器の修繕・更新等にかかる経費を助成することにより、継続的に活動を支援する。 |   |  |  |             |   |
| 取り組み内容<br>と成果<br>(DO)     | 助成対象の学校が主催で専門の講師を招聘し、講習会等を実施した。<br>◎助成対象活動と成果（平成29年度）   |   |  |  |             |   |
|                           |   | 中 学 校   | 小 学 校  |  |             |   |
|                           | 器 楽   | 岳陽中学校管弦楽部<br>・講習会（専門講師）8回<br>吹奏楽コンクール県北大会 金賞<br>吹奏楽コンクール県大会 銀賞  | 笹谷小学校合奏部<br>・講習会（専門講師）5回<br>吹奏楽コンクール県大会 金賞<br>日本学校合奏コンクール全国大会 銅賞 |  |             |   |
|                           | 合 唱   | 北信中学校合唱部<br>・講習会6回・専門家による伴奏4回<br>福島地区小中学校音楽祭 金賞<br>県合唱コンクール 奨励賞 |  |  |             |   |
|                           | ※上記対象校：平成29～31年度の3ヶ年の継続的支援を予定。  |   |  |  |             |   |
| 達成度                       | 指 標 名   | 補助対象校が県大会で入賞する割合  |  |  |             |   |
|                           | 目 標 値 (目 標)   | 100%  |  |  |             |   |
|                           | 実 績 値   | 平成28年度  | 平成29年度   | 平成30年度   | 平成31年度      |   |
|                           |   | 100%  | 100%   |  |             |   |
|                           | 決 算 額   | 600千円   | 900千円  |  |             |   |
| 評 価<br>(CHECK)            | 評 価 の 視 点   | 判 断 の 基 準   |  |  | 判 断 し た 理 由 |   |
|                           | 必 要 性   | 施策体系との整合性   | ■A：整合・貢献している<br>□B：改善・見直しの余地がある                                  |  |             | 一流の指導者による適切な指導・助言は子どもたちの音楽レベルの向上に必要である。また継続的な楽器の更新等への助成により、音楽環境の充実が図れる。 |
|                           |   | 市の関与の必要性  | ■A：妥当・義務的な事業<br>□B：改善・見直しの余地がある                                  |  |             |   |
|                           |   | 緊 急 性   | ■A：緊急性が高い／優先して実施する必要がある<br>□B：現時点では必ずしも実施しなくてよい                  |  |             |   |
|                           | 効 率 性   | 費用対効果   | ■A：費用に見合う成果がある<br>□B：改善・見直しの余地がある                                |  |             | 一流の指導者が、複数回にわたり、アドバイスすることにより、練習の質を上げることに大きく寄与している。                      |
|                           |   | 受 益 者 負 担   | ■A：妥当である □：受益者負担なし<br>□B：改善・見直しの余地がある                            |  |             |   |
|                           |   | 対 象 の 妥 当 性   | ■A：妥当である<br>□B：改善・見直しの余地がある                                      |  |             |   |
|                           | 有 効 性   | 社会環境の変化   | ■A：社会環境の変化に適応している<br>□B：改善・見直しの余地がある                             |  |             | 技術向上を目指す意識が高まり、受講した子どもたちの継続した音楽への取り組みや演奏力のレベルアップが期待できる。                 |
| 類似事業との関係                  |   | ■A：類似事業はない／あるが統合・連携はできない<br>□B：類似の事業があり統合・連携できる                 |  |  |             |   |
| 廃止・休止の影響                  |   | ■A：影響がある<br>□B：影響がない  |  |  |             |   |
| 前年度評価を受けて29年度に取り組んだ事項     | 平成29年度より、中学校だけでなく、小学校も対象とし、支援枠の拡大を行った。  |   |  |  |             |   |
| 課題・問題点                    | 音楽部活動の充実と演奏力の向上を図るため、専門家の指導や楽器更新など継続的な支援が求められている。あわせて、部活動指導者の指導力向上のための支援も必要である。                                   |   |  | 評価検証委員会の評価<br>■ 課題・問題点が妥当である<br>□ 課題・問題点が妥当でない |             |   |
| 課題・問題点に対する改善策<br>(ACTION) | 小学校から専門家の指導を受けることで、演奏力向上の意識を高め、また、継続的支援により音楽部活動の充実を図るとともに、合唱指導法講習会等による指導力向上を図る。                                   |   |  | 評価検証委員会の評価<br>■ 改善策が妥当である<br>□ 改善策が妥当でない       |             |   |

|        |                            |   |   |                              |                                |                              |
|--------|----------------------------|---|---|------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 事業の方向性 | 評価検証委員会の評価                 | <input type="checkbox"/> 拡 充  | <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 | <input type="checkbox"/> 縮 小 | <input type="checkbox"/> 休止・廃止 | <input type="checkbox"/> 終 了 |
|        | 評価検証委員会の判断理由               | 演奏力や指導力の向上からも有意義であり、また楽器の修理や更新は学校や保護者だけでは難しいこと、また支援は活動の励みになることから継続とする。  |   |                              |                                |                              |
|        | 評価検証委員の意見・助言               | <p>①交付金を交付した団体の現状についてリサーチをしていただきたい。</p> <p>②演奏力や指導力の向上という角度からはとても有意義な事業と評価したい。継続的取り組みを促す意味からも事業対象を小学校まで広げた効果は大きい。「音楽部活動支援」の目的や概要と指標名「県大会で入賞する割合」とは乖離していないか。</p> <p>③楽器修理や更新は学校や保護者だけでは難しい。一層の枠拡大を望む。</p> <p>④中学部活動指定事業とともに励みになる事業であり支援枠の増を望みたい。</p> |   |                              |                                |                              |
|        | 教育委員会の評価                   | <input type="checkbox"/> 拡 充  | <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 | <input type="checkbox"/> 縮 小 | <input type="checkbox"/> 休止・廃止 | <input type="checkbox"/> 終 了 |
|        | 教育委員会の判断理由                 | 音楽部活動の充実と演奏力向上を図るため、継続的な支援をしていく必要がある。   |   |                              |                                |                              |
|        | 評価検証委員の意見・助言に対する教育委員会の検討結果 | <p>①交付団体の事業の取り組み内容と成果の検証を行い、事業のあり方の検討を行っていく。</p> <p>②本事業による講習会等の実施により演奏力の向上が、各大会での入賞経験等の成果につながり、子どもたちの演奏力を高める意識の向上も図れるものと考えられる。</p> <p>③④交付団体にとって励みになる事業であることから支援枠の拡大については今後も検討していきたい。</p>  |   |                              |                                |                              |

◆施策の体系

③文化施設の整備・充実

|                           |  |   |   |        |  |   |
|---------------------------|--|---|---|--------|--|---|
| 主要事業名                     | 古関裕而記念館事業  |   |   |        |  |   |
| 概要<br>(PLAN)              | 本市名誉市民の古関裕而氏を顕彰するため、昭和63年に開館した記念館である。<br>常設展示のほか、企画展やサロンを会場としたコンサート等を通じて古関メロディの継承と市民への古関メロディの浸透を図ることにより本市音楽文化の振興に貢献している。   |   |   |        |  |   |
| 取り組み内容<br>と成果<br>(DO)     | 古関裕而氏の偉業と作品を紹介するとともに、古関メロディの浸透を図るため、企画展等を実施した。<br>1 常設展示<br>①古関裕而氏の幼少期から晩年までを大きく5つのコーナーに分け、それぞれの時代の愛用品や記念品を展示<br>②SPレコード、楽譜等の資料展示<br>③作曲に使用していた書斎の再現<br>2 企画展の開催<br>「古関裕而のふるさと福島」展<br>3 サロンコンサートの開催<br>サロンを利用したコンサートを開催した。(12回開催)<br>「 Hammondオルガンの調べ」 「クリスマスサロンコンサート」ほか |   |   |        |  |   |
| 達成度                       | 指標名  | 古関裕而記念館利用者数                                       |   |        |  |   |
|                           | 目標値(目標)  | 16,000人   |   |        |  |   |
|                           | 実績値  | 平成28年度  | 平成29年度  | 平成30年度 | 平成31年度   |   |
|                           |  | 14,940人   | 14,570人   |        |  |   |
| 決算額                       | 20,311千円   | 21,253千円  |   |        |  |   |
| 評価<br>(CHECK)             | 評価の視点  | 判断の基準   |   |        | 判断した理由   |   |
|                           | 必要性  | 施策体系との整合性   | ■A: 整合・貢献している<br>□B: 改善・見直しの余地がある                 |        |  | 本市唯一の名誉市民である古関氏の功績を広く継承することは、本市の音楽文化の振興に重要である。来館者の約5割が県外からの観光客であり、本市の観光振興にも貢献している。    |
|                           |  | 市の関与の必要性  | ■A: 妥当・義務的な事業<br>□B: 改善・見直しの余地がある                 |        |  |   |
|                           |  | 緊急性   | ■A: 緊急性が高い/優先して実施する必要がある<br>□B: 現時点では必ずしも実施しなくてよい |        |  |   |
|                           | 効率性  | 費用対効果   | ■A: 費用に見合う成果がある<br>□B: 改善・見直しの余地がある               |        |  | 企画展やサロンコンサートの実施により、広く古関裕而氏の業績と古関メロディの継承が図られている。<br>また、来館者へCDや書籍等の紹介や販売を行い普及と啓発に努めている。 |
|                           |  | 受益者負担   | ■A: 妥当である □: 受益者負担なし<br>□B: 改善・見直しの余地がある          |        |  |   |
|                           |  | 対象の妥当性  | ■A: 妥当である<br>□B: 改善・見直しの余地がある                     |        |  |   |
| 有効性                       | 社会環境の変化  | ■A: 社会環境の変化に適応している<br>□B: 改善・見直しの余地がある            |   |        | 市民のみならず、県外の来館者に古関裕而氏の業績を紹介し、古関メロディに親しむ機会を提供している。 |   |
|                           | 類似事業との関係   | ■A: 類似事業はない/あるが統合・連携はできない<br>□B: 類似の事業があり統合・連携できる |   |        |  |   |
|                           | 廃止・休止の影響   | ■A: 影響がある<br>□B: 影響がない                            |   |        |  |   |
| 前年度評価を受けて29年度に取り組んだ事項     | 古関裕而氏のドラマ化実現の取り組みにおいて、署名活動や新聞コラムの掲載をし、功績の周知に努めた。<br>また、記念音楽祭では、市内高校の吹奏楽部による「オリンピック・マーチ」の演奏を行い、若い世代への古関メロディの継承を図った。   |   |   |        |  |   |
| 課題・問題点                    | 古関メロディに親しんだ世代の高齢化に伴い、来館者も高齢化が進んでおり、若い世代への古関メロディの継承が課題となっている。   | 評価検証委員会の評価  |   |        |  |   |
|                           |  | ■ 課題・問題点が妥当である<br>□ 課題・問題点が妥当でない                  |   |        |  |   |
| 課題・問題点に対する改善策<br>(ACTION) | ホームページ、記念館だより等による情報発信や、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成として、オリンピックやスポーツに関連した古関メロディの周知等により、若い世代に向けた取組を行う。   | 評価検証委員会の評価  |   |        |  |   |
|                           |  | ■ 改善策が妥当である<br>□ 改善策が妥当でない                        |   |        |  |   |

|        |                            |   |   |                              |                                |                              |
|--------|----------------------------|---|---|------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 事業の方向性 | 評価検証委員会の評価                 | <input type="checkbox"/> 拡 充  | <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 | <input type="checkbox"/> 縮 小 | <input type="checkbox"/> 休止・廃止 | <input type="checkbox"/> 終 了 |
|        | 評価検証委員会の判断理由               | 展示構成を工夫し若い人にも楽しめるようにし、また冠音楽祭の企画は、大学生、高校生などを委員として企画することや、古関裕而の偉業について自ら知る機会を得ることが大切であり継続とする。  |   |                              |                                |                              |
|        | 評価検証委員の意見・助言               | <p>①古関裕而記念館の若い世代に向けた取り組みは、展示構成などを工夫し若い人も楽しめるような内容が期待される。</p> <p>②改善策にあるように、東京オリンピック・パラリンピックというタイミングに合わせた事業展開に期待したい。</p> <p>③古関メロディは、昭和に深く根付いている。世代を超えて楽しんでもらうには県内の吹奏楽団、合唱団、音楽団体に楽譜を紹介（提供は難しいか？）するなどの地道な支援が必要と思われる。冠コンサート、冠音楽祭などの企画も考えられる。演奏団体、大学生、高校生などを委員として企画を発掘することも一方法と思われる。</p> <p>④古関氏について児童・生徒が自ら調べたり演奏したいと思うような取り組みも検討いただきたい。</p> <p>⑤天皇・皇后両陛下もおいでになり、行進曲で知られる「全国高等学校野球選手権大会」も100回記念大会開催の年でもある。これを機に全国へアピールし県内外からの利用者数増を課題として取り組んでいただきたい。</p> |   |                              |                                |                              |
|        | 教育委員会の評価                   | <input type="checkbox"/> 拡 充  | <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 | <input type="checkbox"/> 縮 小 | <input type="checkbox"/> 休止・廃止 | <input type="checkbox"/> 終 了 |
|        | 教育委員会の判断理由                 | 本市唯一の名誉市民である古関裕而氏の功績と古関メロディを広く継承することは音楽文化の向上に必要である。   |   |                              |                                |                              |
|        | 評価検証委員の意見・助言に対する教育委員会の検討結果 | <p>①②⑤東京オリンピック・パラリンピック大会や高校野球選手権大会など古関裕而氏に関連する様々な記念となる機会をとらえ、企画展などを中心に若い世代をターゲットとした事業を検討していきたい。</p> <p>③古関裕而記念音楽祭への中高校生や若い世代の団体の参加により引き続き古関メロディの継承の取り組みを進めるとともに、より多くの参加による音楽祭のあり方の検討を進める。</p> <p>④鼓笛パレード等の学校行事での古関裕而氏の曲の演奏に向けて楽譜提供等の支援を検討していきたい。</p>  |   |                              |                                |                              |